

## 企業理念

私達は 人々の健康に貢献します  
私達は こころの笑顔大切にします



東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に貢献します。

そして私達の企業活動を通して、

患者様、医療関係者の皆さま、地域社会をはじめとするすべての方々にこころから喜ばれ、

求められる企業を目指していきます。



# 東和薬品

## INDEX

### 東和薬品のあゆみと今の姿

- 1 企業理念
- 2 目次・編集方針
- 3 東和薬品が応える社会課題1  
ジェネリック医薬品で医療費の削減に貢献
- 5 東和薬品が応える社会課題2  
健康寿命の延伸と疾病予防に貢献
- 7 これまでのあゆみ
- 9 財務ハイライト・非財務ハイライト

### 東和薬品の価値創造

- 11 トップメッセージ
- 17 東和薬品の強み
- 19 特集1 生産能力を引き続き増強し  
ジェネリック医薬品の安定供給に関する  
社会的使命を果たしてまいります
- 21 特集2 人的資本経営の強化による  
働きがいのある職場環境づくり
- 22 特集3 地球環境および労働安全衛生の  
さまざまな課題に取り組む
- 23 東和薬品の価値創造プロセス
- 25 東和薬品を取り巻く外部環境
- 26 東和薬品の資本
- 27 中期経営計画
- 32 東和薬品グループの目指していく事業

### 事業を支える基盤

- 33 東和薬品のサステナビリティ
- 33 環境
- 36 社会
- 42 ガバナンス
- 46 リスクマネジメント
- 46 リスク情報
- 48 コンプライアンス
- 49 社外取締役メッセージ
- 50 役員紹介

### 財務・企業データ

- 51 11ヵ年財務サマリー
- 53 経営者による財政状態、経営成績および  
キャッシュ・フローの状況の分析
- 55 企業データ

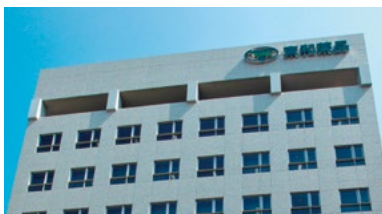
[編集方針] 東和薬品統合報告書は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、当社グループの企業価値向上に向けた取り組みをお伝えすることを目的に発行しています。特集ではジェネリック医薬品の安定供給に向けた取り組み、人的資本経営の強化、地球環境および労働安全衛生への取り組みを掲載しています。価値創造プロセスとトップメッセージにおいては当社の価値創造ストーリーと第5期中期経営計画2021-2023「PROACTIVE II」についてご説明しています。ステークホルダーの皆さまのご意見やご関心にお応えできるよう掲載内容の充実にも努めてまいります。忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

[対象範囲] 東和薬品グループ連結（一部、国内連結・単体の数字を含む）

[対象期間] 2023年3月期（2022年4月～2023年3月）  
※財務情報は2023年3月末時点。一部2022年3月以前、2023年4月以降の取り組みも報告しています。

[参照ガイドライン] IFRS財団 国際統合報告フレームワーク 経済産業省 価値協創ガイダンス2.0

[見直しに関する注意事項] 当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の成果や業績等は記載の見直しとは異なる場合があります。

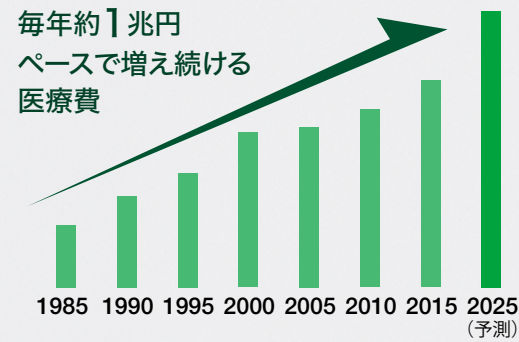




## ジェネリック医薬品で医療費の削減に貢献

### これからも国民皆保険制度を維持するために

日本は高齢化と医療の高度化を背景に、毎年約1兆円のペースで医療費が増え続けています。厚生労働省の試算では、2025年には60兆円を超えると予測されています。一方で、保険料や税金を支える労働人口が減少していることから、制度設計の前提が崩れかけています。このまま試算通りに医療費が膨らみ続けると、今まで当たり前に行われてきた医療が受けられなくなったり、窓口負担や税金が上がったりという事態が想定されます。今後、国民皆保険制度を維持していくため、医療費の増大に歯止めをかけることが欠かせません。

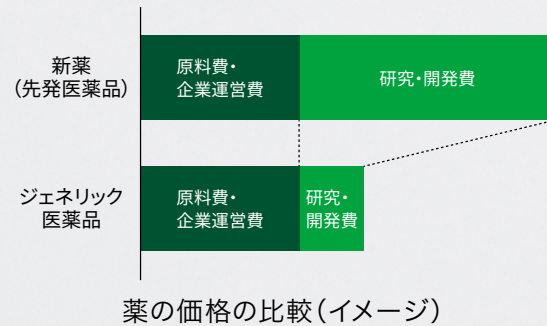


厚生労働省発表「平成27年度国民医療費の概況」  
「第76回社会保障審議会 医療保険部会 資料」

### ジェネリック医薬品の選択で医療費を抑制

ジェネリック医薬品を選択することで、医療費(薬剤費)の負担を抑えることが可能になります。個人の薬剤費の負担を減らすことができるとともに、国の負担、健康保険組合の負担も合わせて軽減することができます。たとえば、1年間に使われる医薬品のうち、変更可能なものをジェネリック医薬品にするだけで、約1.7兆円の薬代を節約できます。

※厚生労働省「令和5年度 薬価基準改定の概要」7ページ



### ジェネリック医薬品に対する信頼の回復に向けて

一部製薬会社における、医薬品、とりわけジェネリック医薬品の信頼を著しく失墜させた違法行為は誠に遺憾です。信頼を何よりも重んじる当社において、一連の事態を重く受け止めています。

今後、同じ業界に属する当社としては、ジェネリック医薬品に対する信頼の回復に向けて、製造管理・品質管理の徹底、コンプライアンス・ガバナンスの徹底を図る取り組みを不退転の決意で進めてまいります。そして、信頼回復の取り組みを必ず成功させ、すべての患者さまに安心して使用していただけるジェネリック医薬品が市場に流通する状況を実現してまいります。

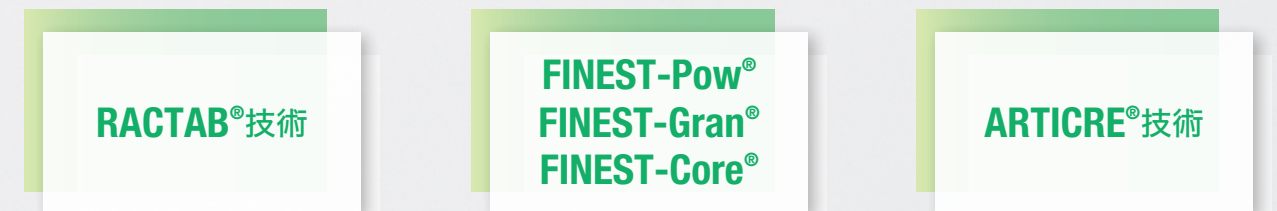
- I. コンプライアンス・ガバナンス・リスクマネジメントの強化
- II. 品質を最優先する体制の強化
- III. 安定確保への取り組み
- IV. 積極的な情報の提供と開示
- V. その他、協会活動の充実、国等との連携

### 患者さまの声に応える医薬品づくり

当社では、さまざまな疾患領域をカバーするため、750品目以上の医薬品をラインナップしています。「ひとりでも多くの患者さんに役立ちたい」という思いのもと、医療現場からの声やご要望に応じて改良を加えつつ、付加価値のあるジェネリック医薬品の提供にまい進しています。その一環として、お子様や高齢者でも飲みやすいよう形や味の改良や、病院や薬局で取り扱いやすいよう、視認性や、光・温度・湿気に対する安定性の向上など、さまざまな工夫を施して常に良い製品づくりを目指しています。



### 東和薬品の技術イノベーション



溶けやすさと硬さという相反する性質の両立を追求し、水なしでも飲めるOD錠(口腔内崩壊錠)をつくるための、当社独自の技術です。高齢などで飲みこむ力が弱い、もしくは水分摂取を制限されている患者さまにも、飲みやすいお薬をお届けしたい。また、外出先などどこでも必要なときに水なしでも飲めるお薬をつくりたい。こうした願いから開発しました。

服用時の苦味抑制や徐放性など、さまざまな機能を機能性粒子に持たせるためのコーティング技術です。これによって苦味を感じにくくなり、より飲みやすいお薬となるよう、苦味を包み込む効果を発揮します。原薬の苦味抑制を始め、徐放性や腸溶性、分散性向上など持たせたい機能に合わせて、3種類のコーティング技術を生み出しました。

規則正しく並んでいる原薬の原子を、不規則に並んだ状態あるいは分散させて、薬の溶解性を向上させる技術です。安定性の低いものや溶けにくい原薬がある中で、原薬を担体となるポリマーなどの水溶性高分子中に分散。これにより、原薬は担体からめとられることで安定性が改善。また、原薬の結晶の状態が変化、あるいは分散するため溶けやすくなります。



## 健康寿命の延伸と疾病予防に貢献

### 健康寿命の延伸と疾病の予防

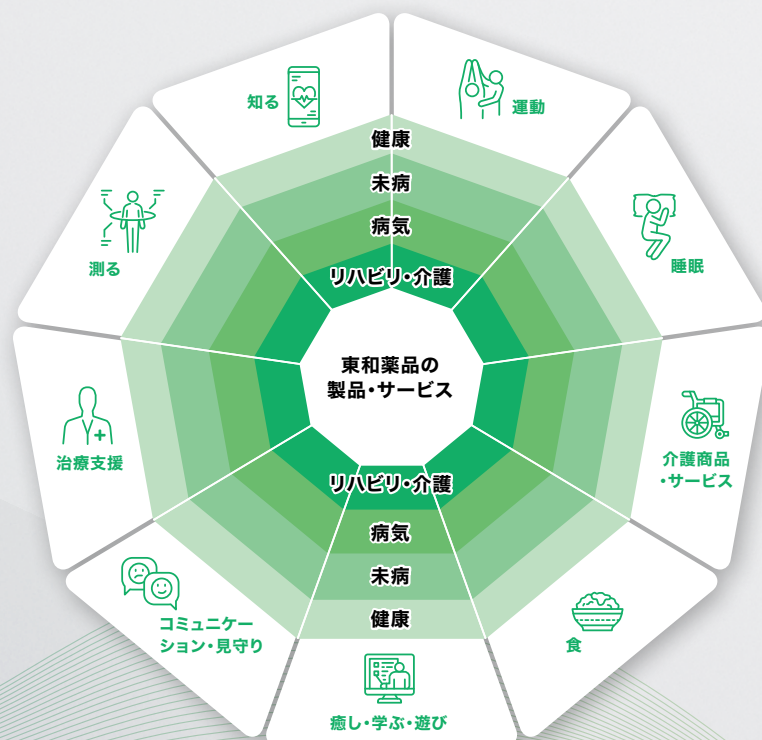
超高齢化社会を迎えている日本では、人生100年時代に向けた健康寿命の延伸が重要な課題となっています。健康寿命とは、WHO(世界保健機関)が2000年に提唱したものです。従来、0歳児が何年生きられるかを表した平均寿命が重視されてきましたが、近年、健康に生活できる期間である健康寿命が注目されています。健康寿命の延伸に向けては、疾病を予防し、健康で活動的な毎日を過ごすことが大切といえます。また、医療費の抑制という観点からも健康寿命の延伸が欠かせないものとなっています。



### 健康寿命の延伸に向けて最適のソリューションを提供

当社が目指すのは、「人生100年時代に向けた総合ヘルスケアカンパニー」として健康寿命の延伸に寄与することです。ジェネリック医薬品の製造販売にとどまらず、ヘルスケアに関連するあらゆる製品・サービスを通じて、最適のソリューションを提供していきます。

また、当社では、健康状態ごとの課題を解決するため、「健康」「未病」「病気」「リハビリ・介護」の4つに健康状態を分類。当社が重点領域として定める9つの取り組み領域と4つの健康状態を組み合わせ、幅広い製品・サービスを提供しています。



## 健康関連事業 製品・サービスのご紹介



### ヘルスケアパスポート

医療従事者、生活者とその家族が、医療・健康情報を共有し適切な医療の提供と健康増進を図るのが地域医療情報連携です。ヘルスケアパスポートは、その「共有」を安全に支えます。

### Hanaサポート

アプリに登録したお薬情報に合わせて、服薬の状況を記録・管理する服薬支援サービスです。かかりつけ薬局とコミュニケーションを取れる機能も搭載しています。



### 認知機能セルフチェッカー

VR内の映像を見ながらの問題に対する回答と視線の動きを解析することで、認知機能の状態をチェックするサービスです。



### comuoon

聴こえに悩む人が自ら工夫するのではなく、話す側から聴こえの改善に歩み寄りという逆転の発想から生まれた対話支援機器です。



### マッスルスーツ

働く現場での腰への負荷軽減から、日常のちょっとした力仕事のサポートまで。健やかなライフスタイルを実現するために生まれたアシストスーツです。



### サバローサカレー

三重県多気町の特産品である前川次郎柿を使用し、スパイシーな辛味の中にもまるやかなコクと甘みのあるカレーです。塩分を控え、DHA/EPA・たんぱく質を意識した商品にもなっております。



# これまでのあゆみ

当社は1951年に創業して以来、70年あまりにわたってジェネリック医薬品の研究開発・製造・販売に取り組んできました。「安定供給」「品質確保」「情報提供」を充実しながら、「飲みやすく、扱いやすい」、工夫した医薬品の研究開発に引き続き注力する一方で、世界中の患者様へ東和薬品グループの付加価値製剤を提供するための体制づくりや、新しい医療体制に対応した健康関連事業の創出に取り組んでいます。

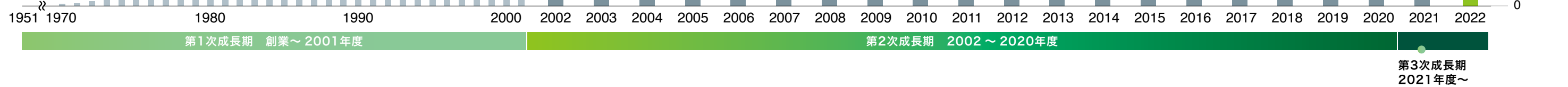
## 会社の歴史 ※年表記は年度

- 1951** 創業
- 1957** 一般用医薬品(OTC)販売開始
- 1965** OTCから医療用医薬品の製造販売へ転換
- 1996** 吉田逸郎が代表取締役社長に就任
- 1997** 新社屋完成
- 1998** 中央研究所完成

- 2000** 付加価値製剤を上市
- 2003** ジェイドルフ製薬(株)子会社化
- 2004** 「RACTAB技術」確立
- 2004** 東証一部上場

- 2010** 大地化成(株)子会社化
- 2016** グリーンカブス製薬(株)設立
- 2018** 新規事業の創出のためTIS(株)と合併会社Tスクエアソリューションズ(株)を設立
- 2019** 新規市場への進出のためスペインのPensa Investments, S.L.を子会社化  
現商号:Towa Pharma International Holdings, S.L.
- 2021** 三生医薬(株)子会社化
- 2022** 2022年4月に東証プライム市場へ移行

### [ 連結売上高推移 ]



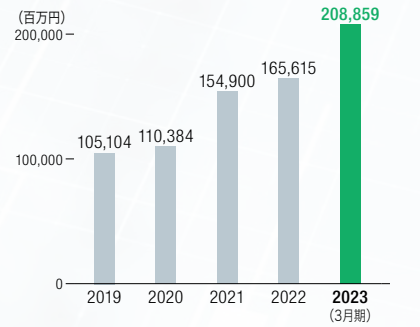
## ジェネリック医薬品使用促進策に基づく取り組みの歴史

|                    |      |  |  |  |   |  |
|--------------------|------|--|--|--|---|--|
| ジェネリック医薬品数量シェア政府目標 |      | <b>2007</b><br>2012年度までに<br><b>30%以上</b> | <b>2013</b><br>2018年度までに<br><b>60%以上</b> | <b>2015</b><br>2017年央に70%以上、2020年度末の<br>なるべく早い時期に <b>80%以上</b> | <b>2017</b><br>2020年9月までに<br><b>80%以上</b>       | <b>2022年度実績</b><br><b>80.7%</b>                                    |
| 生産体制               | 大阪 > | <b>1977</b> 大阪工場完成                       | <b>1981</b> 大阪第二工場完成                     | <b>2005</b> 新大阪工場(現大阪工場)完成<br>(生産能力25億錠)                       | <b>2013</b> 大阪工場<br>倉庫・試験エリア拡大                  |  |
|                    | 岡山 > | <b>1983</b> 岡山工場完成                       | <b>1995</b> 包装棟完成                        | <b>1996</b> 製剤棟増築  | <b>2012</b> 西日本物流センター・<br>第二固形製剤棟完成             | <b>2016</b> 第二固形製剤棟増築<br>(生産能力25⇒35億錠)                             |
|                    | 山形 > |  | <b>1998</b> メクト(株)<br>東北工場買収             | <b>2008</b> 山形工場<br>建設計画開始                                     | <b>2012</b> 山形工場・東日本<br>物流センター完成<br>(生産能力25億錠)  | <b>2017</b> 新東日本物流センター完成(移転)<br>固形製剤棟改装・第二固形製剤棟完成<br>(生産能力25⇒30億錠) |
| 販売体制               |      |  |  | <b>2011</b> 東和式直販体制  | 営業所(2023年10月現在) 71拠点<br>代理店(2023年10月現在) 31社62拠点 | 東和式販売体制へ<br>2017年 広域卸2社との協業を開始                                     |
|                    |      |  |  |  |   | <b>2018-2022</b> 第二固形製剤棟に順次設備導入<br>(生産能力30⇒65億錠)                   |

## 財務ハイライト

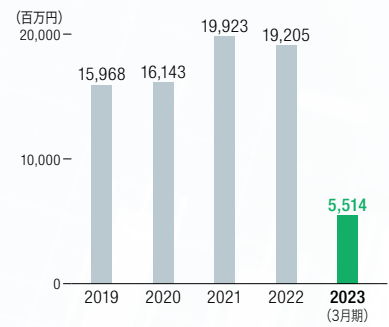
### 売上高

208,859 百万円



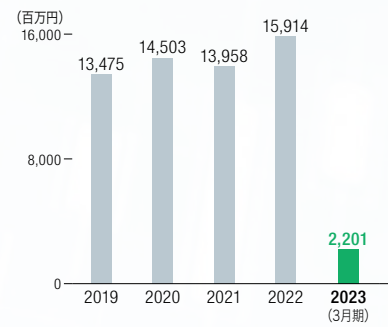
### 営業利益

5,514 百万円



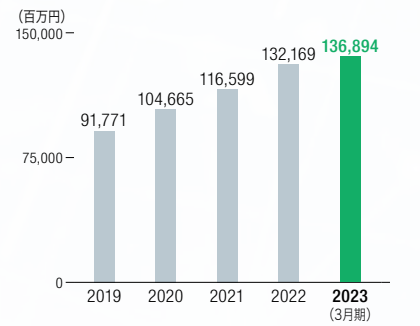
### 親会社株主に帰属する 当期純利益

2,201 百万円



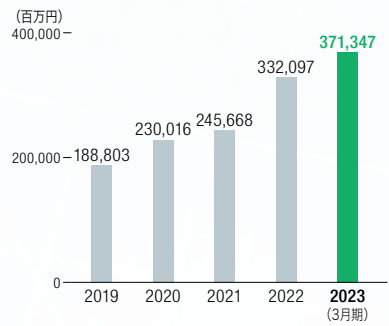
### 純資産

136,894 百万円



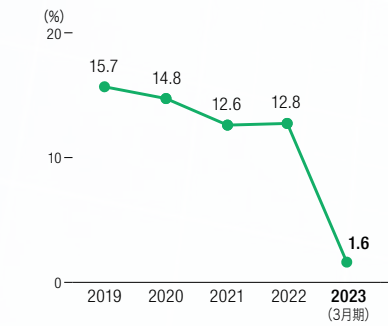
### 総資産

371,347 百万円



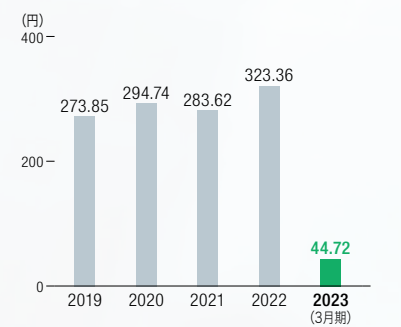
### ROE

1.6%



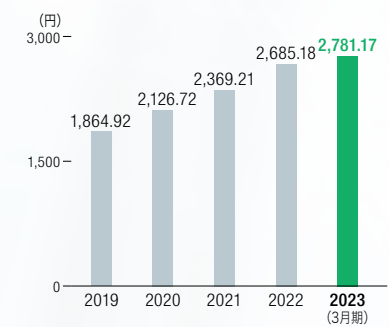
### 1株当たり当期純利益

44.72 円



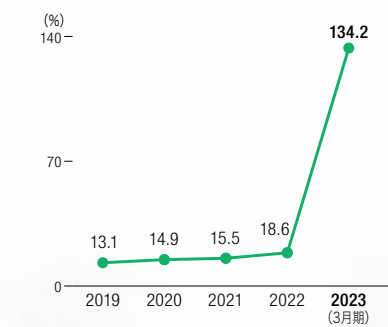
### 1株当たり純資産

2,781.17 円



### 配当性向

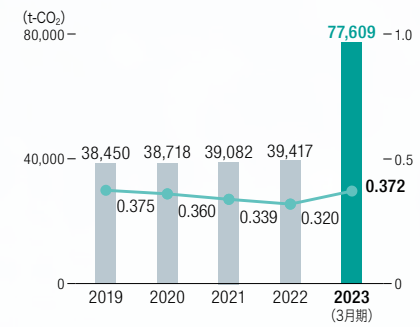
134.2%



## 非財務ハイライト

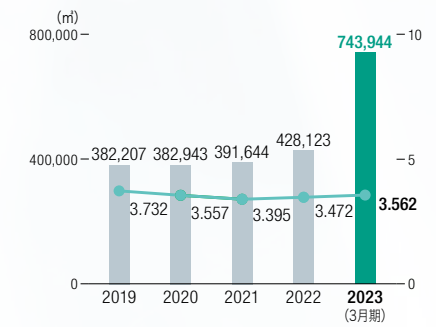
### CO<sub>2</sub>排出量

77,609 t-CO<sub>2</sub>



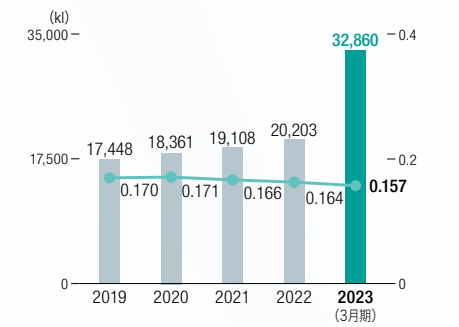
### 用水使用量

743,944 m<sup>3</sup>



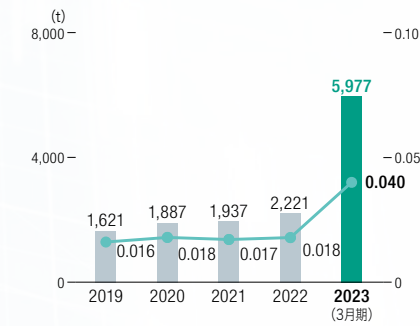
### エネルギー使用量

32,860 kl



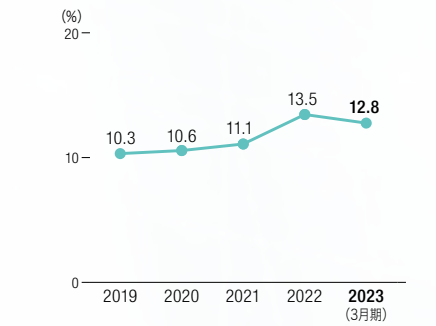
### 廃棄物排出量

5,977 t



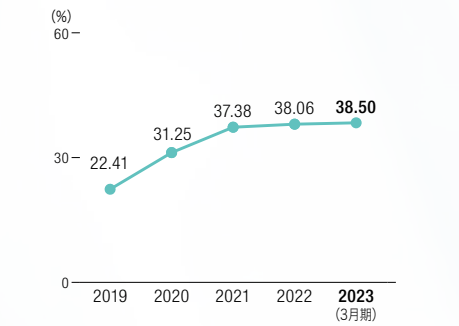
### 女性管理職比率

12.8%



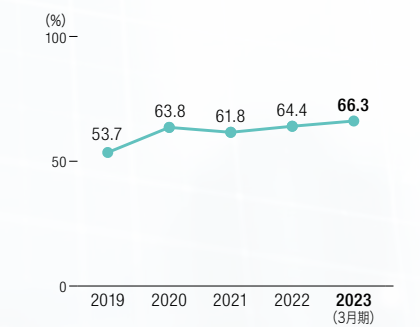
### 新卒採用者における 女性比率

38.50%



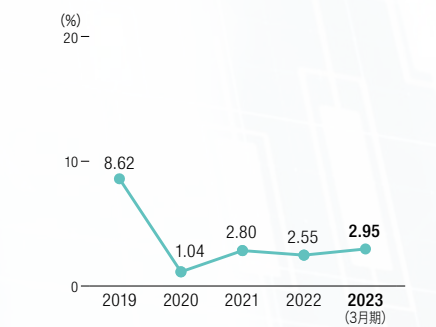
### 有給休暇取得率

66.3%



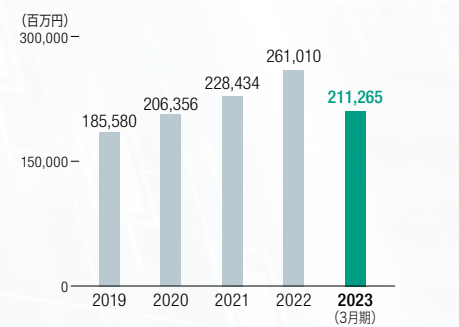
### 3年以内離職率

2.95%



### 医療費節減額

211,265 百万円



注)当社は、2019年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。  
2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」および「1株当たり純資産」を算定しております。  
2023年3月期は、連結子会社9社の決算期変更の経過期間となり、当該連結子会社は15ヵ月(2022年1月1日~2023年3月31日)を連結対象期間とした変則決算となっております。  
2023年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。